



寄付は、身近な
ボランティア

福島で長期にわたる復興支援活動や地域再生に取り組むためには、皆さまのご理解とご支援が必要です。
「何かしたい、役に立ちたい」という思いを、私たちへの寄付に託していただけませんか。



津波被害・原発事故で浜通りから避難されている方々と避難先となっている県北地方の人々をつなぐ情報紙

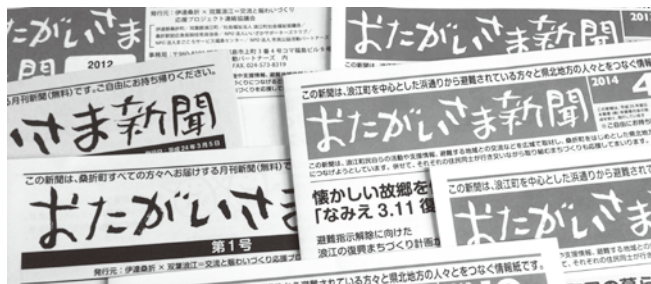
特定非営利活動法人
市民公益活動パートナーズ

なさひと 情けは他人の為ならず、 巡り巡って我が身に返る だって「おたがいさま」ですもの

東日本大震災と原発事故によって避難されている方々は、それまでのライフスタイルや暮らし方を変えなければならなくなりました。そうした方々同士をつなぎ、同時に避難受入地域の方々との交流を促しながら、同じ被災者として“おたがいさま”の心をもって互いに寄り添っていただけることを願い、2011年11月からフリーペーパー『おたがいさま新聞』を月1回程度のペースで作り続けています。

しかし、被災直後にあちこちで創刊されたフリーペーパーは、被災地への関心が薄れ、財政的な支援が終了するにつれて、発行が中断されているのが現状です。

『おたがいさま新聞』をみんなと一緒に作り続けませんか。



被災地と避難者の「あした」を照らす 役割を果たしたい

福島県内では、何時になったら元の暮らしに戻れるのか、将来に向けた見通しが立たない状況にあります。放射線量に基づく地域区分の見直しや除染等、ふるさとへの帰還の取り組みがようやく始まったものの、一方では原発事故は一向に収束せず、「あした」への希望も挫けそうになっています。だからこそ、私たちはさまざまな人の心に寄り添うことのできる、息の長い支援活動を続けていきたいと思っています。

そのためにも、『おたがいさま新聞』の趣旨にご賛同いただき、継続発行への寄付や広告、情報のご提供など、皆さまからのご支援をお待ちしています。



津波被害・原発事故で浜通りから避難されている方々と避難先となっている県北地方の人々をつなぐ情報紙

おたがいさま新聞のあゆみ

- 2014年 1月 新春特集 「新聞を支える協力団体」
- 2014年 8月～12月 連載 「浪江町出張所・町役場に聞く」
- 2013年 5月 配布エリアが県北全域に広がり、紙面リニューアル 活動を伝える記事をアイコン付に
- 2012年 8月 連載 「浪江の笑顔」スタート 
- 2012年 5月 配布エリアが福島市にも広がり、紙面リニューアル 特集 「頑張るひと・励ますひと」スタート
- 2011年 11月 創刊準備号 桑折町内に配布開始 
- 2011年 5月 伊達郡桑折町に、桑折駅前仮設住宅完成
- 2011年 3月11日 東日本大震災及び原発事故 発災

これからも復興や被災者支援に取り組む人たちがや支援情報を伝えます